

英語英米文学科 4年

留学先：カナダ

マウントアリソン大学

留学期間：2022年5月～2022年12月

私が留学を通じ意欲的に取り組んだ内容は、多くの人と関わることで自らの語学力だけでなく、強く興味のある他文化への理解を深めるということです。これは留学出発前からの目標でもあり、今留学後帰国してから考えても、絶対にカナダでの留学を通じてでしか得られなかった学びでした。

いくつか例を挙げて記述したいと思います。まず、**MASSIE** プログラムのキャンパセーションパートナーとの出会いがありました。**MASSIE** プログラムでは、会話力を身につけるために、ひとりひとり、大学の生徒がボランティアでパートナーとして参加してくれます。正直に言って、彼とはとっても仲が良かったとは言えないような関係でした。何らかのボランティアに参加することは大学生にとってほぼ不可欠なものであり、実際はほぼやる気がないようなパートナーも多かった上、他国出身の彼とは待ち合わせや約束の価値観も違い、ドタキャンや遅刻などが当たり前で、最初はあまりいい印象を持つことができませんでした。しかし、会わなければならないからと会って話すと、彼がウクライナ出身の18歳であること、趣味やアルバイトのことなど、たくさん興味深い話を聞くことができました。特に、彼は渦中のウクライナの、当時最もニュースで報道されていたマリウポリ出身でした。彼が、自分の街はもうない、家族は無事である。非常に軽く話していたのを覚えています。私が留学生活で聞いた話の中で最もショッキングな出来事の一つであることは間違いありません。ニュースで報道されている出来事が目の前にあるように感じ、自分がいかに他人事に聞き流していたかを実感しました。同時に、日本人という立場からかけられる言葉が一つも思い浮かばなかったのもショックでした。いまだに、何を言っても薄っぺらく感じてしまい、正解は思いつきません。

中国出身の留学生との会話も印象的でした。彼女は高校からカナダに家族と共に引っ越してきて、こちらの学生として生活していました。しかし、数年前のコロナウイルスの発生により、はっきりとした差別を受けたそうです。露骨に避けられたり、コロナ関連の蔑称で呼ばれたり、到底受けるべきでない仕打ちです。日本人留学生の友人も同様の経験をしたと言っていました。彼女の場合は、高校へ編入するための手続きでさえ、明確な壁を感じたと教えてくれました。コロナウイルスをきっかけに、世界中でアジアンヘイトが発生しているというニュースは何度も耳にしたことがありました。しかしそれはアジア圏で発生し得ないことであり、当時の私は想像もできず、その被害を矮小化していたことを認識しました。また、アジア人差別のような行為は自分自身も何度か経験しました。

最後にひとつ楽しい思い出を記述したいと思います。カナダでは10月にサンクスギビングデーがあり、その日はホリデーとして大学も休みでした。地元が近い友人などは帰省したりしていたのですが、私は友人と近くの街の **Airbnb** を借りフレンズギビングをやるう！と企画し、一泊二日にて実行しました。私も友人もアジア出身だったこともあり、なかなか文化の違うカナダの食事に辟易しており、また寮のキッチンが料理を作るような場所ではなかったので美味しいものを作って食べるということだけでも大いにご褒美でし

た。バスのチケットを予約し、スーパーで買い物をし、メニューを考え、レシピを調べ、キッチンで友人と料理して食べたターキー、ステーキ、そしてラーメンはカナダで食べた何よりも美味しかったです。その後、朝までお酒を飲みながら、勉強の話、恋の話、それだけでなく国の政治的問題やフェミニズム、格差社会、日本なら友人と話したこともない話を真剣に語り合いました。非常に大学生らしく、コロナ禍で2年間何もできなかった分、充実した時間でした。

総じて、誰かとの関わりを通じて得られるのは情報だけでなく、共感や自分のエピソードを思い出すことで自分自身のことも知れる行為であると学びました。最後に、人との関わりで最も重要なのは、リスペクトだと思いました。